

# がいろめ倶楽部たより



## ●11月～12月の活動報告

### ◆「浅田先生を囲むやきもの談義」が開催されました。

11月9日(木) 10時～12時 本館1階展示説明室

講師: やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田 員由氏

「中世とやきもの」中世は鎌倉幕府の成立で、政治・文化の中心が、京都と鎌倉に二分された地方分権の時代。これに伴い地域産業が発達し、大量生産・大量輸送の可能な地域が、中世窯業として展開。醸造業や染物業、都市での貯蔵用に大量の大甕が必要になり、現代まで生産を続けている「六古窯」を含め 30ヶ所以上の「中世窯」が成立していく、各窯の生産品の特徴、流通の概要を解説されました。(参加者16名)



12月14日(木) 10時～12時

本館1階展示説明室 講師:浅田 員由氏

### 「古代中世のやきもの 六古窯とその周辺」

マスコミで紹介された、古墳から明治以前の時代区分の名付け見直しについて、コメントされた後、六古窯のうち越前焼と珠洲焼について解説されました。越前焼が時代に合った製品を供給出来、流通も北海道から島根県までと構築できたのに比べ、珠洲焼は生産地も限られ、生産品も須恵器伝統を受け継ぐ灰黒色陶器であったことなど、伺いました。(参加者19名)

### ◆やきもの大学「染付の魅力さをぐる」が開催されました。

11月25日(土) 10時30分～12時 本館地下1階講堂

講師: 沖縄県立芸術大学教授 森 達也氏



「中国青花瓷器と海のシルクロード」陶磁器生産で有名な地、景德鎮の名の由来は北宋時代の年号であること。かの地は元時代に青花磁器が作られるようになり、明・清時代には宮廷用の官窯磁器生産から大発展したこと。海のシルクロードは、陶磁の道とも呼ばれ、中近東へ運ばれた青花瓷器の伝世品・発掘品が沢山あり、最近のトルコ、イランでは青花瓷器の展示が整備されている状況等、森先生ご自身撮影の写真を拝見し、往時の盛んな交易状況を実感しました。また、「新安沈船」の積荷に元の青花が発見されない事から青花瓷器の完成は1323年以降1351年の間と時期が推定されること等、大変興味深いご講演をいただきました。(参加者131名)

12月2日(土) 10時30分～12時 本館地下1階講堂

講師: 東京藝術大学名誉教授 竹内 順一氏

### 「名物茶碗の変遷—『染付・荒木茶碗』の意味するもの」

千利休以前の古文献で、茶碗とは青磁(=硬いやきもの)を意味し、総釉掛けで文様はなく、平碗を指していた事からお話は始まり、茶会記や名物記などの豊富な資料・分析を基に、数少ない伝世品である荒木茶碗に焦点を当てて、千利休以前の茶碗の変化について、ご講義くださいました。荒木茶碗所有の徳川美術館のご配慮で、講演会に合わせて展示されたことも披露され、講演終了後、早速展示室でご覧になった方も多かったようです。また、東京国立博物館やマスプロ美術館に現存する鍔(かすがい)茶碗の、中国でしか使われないカスガイによる修理の手法が映



像で紹介され、大変興味深く拝見いたしました。(参加者116名)

12月10日(日) 10時30分～12時 本館地下1階講堂

講師: 佐賀県立九州陶磁文化館長 鈴木 由起夫氏

### 「九州の染付の展開から瀬戸への伝播」



染付の原点は、やきものの白さへの憧れと描くことが始まりで、素地土に恵まれた有田以外では、白さを求め白化粧土などの工夫をし、絵付けは鉄絵が始まりであったと端緒が開かれ、染付のコバルト顔料(呉須)は、地物がある瀬戸とは異なり、有田ではもっぱら中国からの輸入品だったこと。有田での染付技法が年を経る毎に向上する様を示され、染付の濃淡の微妙な美しさの違いは、有田では程なく素焼き後に絵付けされるようになり、中国では素焼きせず生の上に描かれていた事によるとのこと。一方、同じ九州でも武雄では染付には移行せず鉄絵のみだったそうで、九州内でも地域差があったことを理解しました。17世紀後半の京都公家屋敷のごみ穴遺物の出土比率から、肥前系磁器の7割が染付で上絵付けは2%と、肥前の華やかな色絵磁器生産は実際にはほんの一握りで、古美術が大切にされたから、現在に残

されているのだと再認識しました。瀬戸の加藤民吉が磁器技法習得のため、九州で移動した経路も紹介され、最後に青と白の染付がなぜ多くの人に魅力を感じさせるのか?の回答を示されました。(参加者91名)

### ◆11月26日(日) 10時～16時 茶楽良倶楽部

#### 「WallBe 3周年記念祭」に参加

今回WallBe三周年祭が七宝アートビレッジで開催され、参加しました。当日限りの催しでしたが、約300名のご来場があり、体験ブースが中心でしたので若い家族連れが多く、小さなお子さんが遊ぶスペースも作られ、お母さんやお嬢さんも楽しく過ごしてみえました。テーブルで煎茶を楽しむ体験を味わってもらおうと企画しましたが、会場の都合でお話主体となりました。NPOの活動の写真に興味を持たれる方も多々あり、茶楽良倶楽部の活動などと共に、具体的なお案内ができました。



### ●今後の講座ご案内

#### ◆考古学とやきもののつどい

平成 30 年 1 月 26 日 (金) 午前 10 時 30 分から 12 時 愛知県陶磁美術館 展示説明室  
「足下に眠る 1086 窯のエネルギー-猿投窯と考古学-」 大西遼 学芸員  
参加無料・事前予約不要

#### ◆やきもの大学

染付 九州研修旅行 平成 30 年 3 月 13 日から 15 日(2泊3日)  
別紙、研修旅行募集要項をご参照ください。参加申込期限 2月9日(金)

発行元 : 「NPO 法人 やきもの文化と芸術振興協会」事務局  
住所 : 〒489-0875 瀬戸市緑町2-43  
お問い合わせ: 電話番号: 090-5850-6969 (谷)  
メール: yakimono.bunka@gmail.com  
ホームページ: <http://yakimono.bunka.jimdo.com/>